

## 農業共済新聞 千葉版

|     |  |               |
|-----|--|---------------|
| 掲載号 | 4 月 2 週号                               |               |
| 筆者  | 所属                                     | 千葉県農林総合研究センター |
|     | 職名及び氏名                                 | 研究員 金子 洋平     |
| 題名  | ナシ炭疽病の発生生態と薬剤防除                        |               |
| 備考  | 【表説明】<br>写真 ナシ炭疽病<br>図 ナシ炭疽病の発生消長と防除の例 |               |

### 【本文】

ナシ炭疽病はナシ炭疽病菌という糸状菌により引き起こされる病害です。千葉県では、2006年以降、多発生し、早期落葉を引き起こすなど、問題になっています。

本病は主に7月中旬頃から発生し落葉期までみられます。はじめに葉に小さな黒点が形成され、次第に拡大、融合して大型の黒斑になります。さらに病徴が進展すると早期落葉に至ります。炭疽病菌の越冬場所は被害落葉と花芽等であり、前年に発病の激しかった樹での発病は早く、激しくなる傾向があります。したがって、耕種的防除としては、これら越冬場所を減らすことが重要であり、被害落葉は処分し、多発生した枝はせん定の際に優先的に切り落とします。

薬剤防除については、オーソサイド水和剤80、チオノックフロアブル及びオキシラン水和剤を予防的に使用します。これらの剤は主に黒星病防除に用いていましたが、炭疽病にも有効であり、耐性菌が発生しにくい薬剤です。

前年、本病が多発生した園では5月下旬にデランフロアブルを用います。この剤も耐性菌が発生しにくいですが、使用時期が収穫前60日までとなっているため、この時期か収穫終了後に使用します。また、この剤は皮膚のかぶれに注意が必要です。

収穫期頃に多発生した場合は、収穫前日まで使用が可能なナリアWDGや同系統のストロビドライフフロアブル等を用います。ただし、これらは耐性菌が発生する恐れがありますので、単剤での使用や連用を避け、年に2回程度の使用に留めます。



ナシ炭疽病

| 月        | 4 | 5          | 6                           | 7      | 8                | 9    | 10   | 11                | 12  |                    |
|----------|---|------------|-----------------------------|--------|------------------|------|------|-------------------|-----|--------------------|
| 主な防除剤と作業 |   | (デランフロアブル) | オーストロンサイド<br>水和剤80<br>フロアブル | ナリアWDG | (ストロピードライフフロアブル) | 幸水収穫 | 豊水収穫 | オキシランフロアブル<br>水和剤 | 炭疽病 | 落葉の処分<br>罹病枝の切り落とし |

ナシ炭疽病の発生消長と防除の例

( ) 内は多発生した場合の臨機防除の例を示す